



摩天崖（まてんがい）

何十万年もの間、日本海の逆巻く風浪に削り取られてきた比類なきスケールの大断崖。

標高は257mにも及び、海蝕崖では日本一の高さを誇ります。

崖面には繰り返し流れて積み重なった溶岩の作るしま模様が見えます。



西ノ島町には、摩天崖や通天橋といった雄大で美しい自然景観のほか、地域固有の動植物により形作られた独自の生態系が今も息づいています。これらの豊かな自然環境は、度重なる火山活動や海面の上下運動によりもたらされました。また先人たちは、そこから得られる自然の恵みを活かしながら生活を営んできました。



この「大地の成り立ち・豊かな生態系・人々の営み」が今も色濃く残っていることが評価され、西ノ島を含む隠岐諸島は平成25年に「世界ジオパーク」に認定されました。

美しい自然環境を次世代へと継承していくため、自然と共生した暮らしを推進していきます。

自然。

3 自然とともに暮らす

赤尾展望所（あかおてんぼうじょ）

赤尾スカイラインの終点にある赤尾展望所からは、隠岐を代表する世界一級の景勝地、国賀海岸を一望にのぞむことができます。

西ノ島町の西海岸一帯は、約7kmにわたって粗面玄武岩の海蝕崖、海蝕洞が続いており、昭和38年（1963年）には、国立公園に指定され、特別保護区となっています。



明暗の岩屋（あけくれのいわや）

延長250mに及ぶ、自然が造り出した天然のトンネル（洞窟）です。狭い暗黒の世界を無事通り抜けると、そこにはコバルトブルーの海が迎えてくれます。

観音岩（ローソク岩）

国賀海岸の奇岩の中でもひととき細長く（海拔約40m）そびえ立っています。

海上からは、百済観音の姿にも見えることから「観音岩」とも呼ばれています。

西ノ島町の陸上からは、日が沈むころに、火が灯ったろうそくに見えることから「ローソク岩」とも呼ばれています。

